



～出会いと学びのアートファーム～ 美術館に行こう

図▷記事について…広報統計課 ☎43-9317 ▷文化芸術推進事業について…美術館 ☎45-8338

八戸市美術館は、さまざまな世代の人の「出会いと学びの場」となることを目指しています。今回は、子どもや保護者、若者向けの取り組みとして、子育て世代に優しい設備や高校生が活躍するプログラム、学校と連携した事業などをご紹介します。

親子での来館も安心！



来館案内
はこちら

子育て世代の皆さんに安心して美術館を楽しんでいただけるような設備や取り組みがあります。

1 親子向けの設備・サービス

授乳室やキッズスペースなどがあります。お気軽にご利用ください。

授乳室・おむつ交換台



ミルク用のお湯が必要な人は、総合案内までお知らせください。

ベビーチェア付きトイレ



男性・女性どちらのトイレにも、ベビーチェアが付いています。

キッズスペース



靴を脱いで上がることができます。絵本やおもちゃを用意しています。

ベビーカー・車椅子の貸し出し



総合案内で、ベビーカーと車椅子を無料で貸し出しています。

2 託児ルーム

【主催】八戸学院大学地域連携研究センター

子育て世代が気軽に来館できる機会と、学生の実践的な学びの機会を創出するため、保育士を目指す学生が子どもをお預かりする、無料の託児スペースの利用可能日を設けています。

日時 9月7日(日)10時～16時



詳しくは
こちら



八戸学院大学短期大学部の学生の2人にお話を伺いました。

実習で学んだことを生かしたり、子どもが興味を持ったことを邪魔しないようにしたりするなど、意識して関わるようにしています。実際に子どもと接してみて、新たな学びを得られることもあります。



保護者から、「展示をじっくり見られて良かった」と言われることがあり、役に立てたと感じます。子どもと一緒に美術館を見て回るのもいいですし、託児ルームに子どもを預けることもできます。気兼ねなく利用していただきたいです。

おままごとや色塗り、絵本を読むなど、子どもたちがやりたいことを一緒にして過ごしています。子どもと接するときは、安全を第一に考えるよう、気を付けています。子どもと関わっていると、「子どもってこんなことができるんだ」というような発見もあります。



託児ルームにはたくさんのおもちゃがあり、性別にかかわらず、いろいろな年齢の子どもが楽しむことができます。ぜひ、お気軽に遊びに来てください。

アートファーマーとして高校生が活躍中！

美術館の建築の秘密を紹介する建築ツアーガイドは、「アートファーマー」である市民メンバーがガイド役として案内しています。

このツアーの特徴は、決まった原稿がないことです。ガイドは、美術館の建物の魅力や特徴について学び、自分の個性を生かして伝えます。ガイドによって、紹介するポイントもコースも異なりますので、ぜひ何度でもお楽しみください。

※建築ツアーガイドの新規メンバーは、10月以降に募集予定です。

日時 9月27日(土)10時30分、13時30分 ※各回30分程度

定員 各回10人程度(先着順)



詳しくは
こちら



アートファーマーとして活躍している高校生の2人にお話を伺いました。

ガイドになろうと思ったきっかけは？

アートファーマーのイベントに参加した際にスカウトされたのがきっかけです。アートファーマーについて紹介され、皆さんに憧れて参加しました。

ガイドをするときに心がけていることは？

美術館は場所によって声の聞こえ方が違うので、移動するたびに「聞こえますか」と確認するようにしています。また、自分の伝えたいことを分かりやすく話すように気を付けています。



ナカムラメイさん

\\ 皆さんへのメッセージ //

「美術館」と聞いたときに、「難しそう」「ハードルが高そう」と感じる人もいると思いますが、美術館はとても自由なところです。建築ツアーガイドが、「美術館って意外と楽しいかも」と思うきっかけになるといいなと思います。

話す内容はどうやって決めているの？

開催されている展示に合わせたおすすめの観覧の仕方や、自分が詳しく話せる内容を考えて話すようにしています。

建築ツアーガイドの魅力は？

アートファーマーは、それぞれ話すことも着眼点も違いますし、参加者の反応もさまざまです。人によって、美術館に対する感じ方・考え方の違いが見られて、面白いなと思います。



ガイドになろうと思ったきっかけは？

将来、地域に関わる仕事がしたいと思っています。昨年の夏休みに美術館で1日館長体験をしたときに、建築ツアーガイドというプログラムがあることを知って、応募しました。

ガイドをするときに心がけたいことは？

今回が初めてのガイドでした。たくさんの人に、美術館は「行きやすい場所」だと感じてもらうためにも、明るく楽しく話すようにしたいです。



あつきさへさん

\\ 皆さんへのメッセージ //

「建築ツアーガイド」と聞いて、難しそうなイメージがあるかもしれませんが、実際は楽しいですし、ガイドも優しい人ばかりなので、気軽に来ていただければと思います。

話す内容はどうやって決めているの？

自分が覚えている中で一番伝えたいことを話しています。テーマがあるわけではないので、好きなことを話すようにしています。

建築ツアーガイドの魅力は？

建築に興味はありませんでしたが、聞いてみると面白いことがたくさんあります。ガイドを通じて、人とつながることができるのが魅力だと思います。



学校と連携した事業を展開！

美術館では、小学校・中学校・高等学校などの教育機関と連携強化を計画し、さまざまな事業を実施しています。令和2年には、小学校・中学校・高等学校の教員、美術教育の専門家、美術館の学芸員で構成された「学校連携プロジェクトチーム」を結成しました。学校現場で抱える課題の解決や、児童・生徒がアートを通して自ら答えをつくり出していく力を引き出すことを目的としています。



詳しくはこちら

1 美術館新聞部

八戸工業高等学校の美術部員を中心に、3年から活動を始めました。高校生と小・中学生が協力して美術館新聞部として活動し、オリジナル新聞「とれたて!すま〜と」を年1回発行しています。取材先の検討から紙面作りまで、部員たちが相談しながら進めています。



2 学校見学受け入れ

年間を通して見学の受け入れを行っています。学芸員・学校連携コーディネーターによる展覧会解説や対話鑑賞、ワークショップなどが体験可能です。また、職場体験では、美術館の事務作業や総合案内業務などをすることができます。

6月には八戸盲学校が、展覧会「浮世絵コンニチは タイカンする江戸文化」を見学しました。学芸員の解説付きで展覧会を鑑賞し、浮世絵文化や技法などを学んだ後、版画の摺り体験を行いました。



3 出張授業

作品について学ぶ機会や美術館へ足を運ぶきっかけづくりとして、展覧会に合わせた出張授業を行っています。6年には、展覧会「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」に合わせ、作品理解を深めるためのワークシートを使った解説や対話鑑賞を行いました。



4 アーティストとの作品制作プロジェクト

6年の展覧会「風のなかを飛ぶ種子 青森の教育版画」に関連し、公募で集まった市内の小学生とアーティストユニット・THE COPY TRAVELERSによる作品制作プロジェクトを実施しました。「生活を見つめて表現する」という教育版画の原点に立ち返り、自分たちが暮らす八戸のまちを眺めたり、八戸のお店で素材を集めたりして作品を制作し、展覧会で作品を展示しました。



さまざまなプログラム・展覧会を用意！

参加して楽しむプログラムやワークシートを使って鑑賞する展覧会があります。9月に開催されるプログラム・展覧会をご紹介します。

1 エンジョイ！ぬり絵DAY

絵の得意・不得意を問わず、気軽に楽しめる塗り絵。実際に手を動かしてみること、見るだけでは気付かなかった作者の気持ち、配色や構図の工夫など、新たな発見があるかもしれません。当日は、塗り絵の先生からアドバイスを受けることができます。

日時 9月13日(土)10時～14時



詳しくはこちら



2 くにゆぎの森 魔法学校

市内在住の版画家・しばやまいぬが、「魔法」をキーワードに版画と紙工作で作る虫の世界「くにゆぎの森」を、12月中旬～8年1月中旬に展示予定です。

その準備として、「くにゆぎの森」に暮らす版画の虫について学び、紙工作で虫を作るメンバーを募集します。

日時 9月7日(日)10時15分～12時30分

対象 小学5年生以上

申込期限 9月6日(土)



詳しくはこちら



3 コレクションラボ011 きっと、そこには

コレクションラボは、美術館のコレクションが持つ魅力や可能性を探る展示を行うシリーズの展覧会です。

今回の展覧会名は「きっと、そこには」です。作品を鑑賞するとき、鑑賞者は自由に作品と向き合い、解釈することができます。「きっと、そこには何かがあるかもしれない」と想像しながら見ること、鑑賞の楽しみ方を探ります。



今川和男《牧童》1963年

作品鑑賞の手助けをするワークシートを使うことで、初めての人でも鑑賞を楽しむことができます。ぜひお越しください。

会期 9月13日(土)～12月8日(月) ※展示替えあり



詳しくはこちら

何が描かれているのかな？

これは何色だろう？

馬と人は何をしているのかな？

物語をつけるとしたら？